

アジアにおける女性売買と闘う：フィリピンからの挑戦

ながせ
アガリン・サラ 長瀬

第9回世界女性学大会(WW05)の組織委員会のみなさん、このような大会を準備しトラフィッキング問題に関してフィリピンの女性の視点から問題提起する機会を与えていただいたこと、お礼とお祝いを申し上げます。

私は第三世界の国から来ました。女性が戦争に巻き込まれ、生存のための闘いの中にあるフィリピン南部のミンダナオという遠隔の貧しい地域から来ました。

疑いの余地なく、ミンダナオにおける現在進行中の国家による「対テロ戦争」のために、フィリピンの女性の多くが家族を支えるために海外に出稼ぎに行くよう強いられています。

不幸にも彼女たちが海外での職を嫌々ながら求めるために支払う莫大なお金までもが、彼女たちに仕事を約束するという腐敗したフィリピン政府の役人や無法なプロモーターやリクルーターたちに浪費されています。そして日本のように受入国の政策がますます厳しくなっているが故に、彼女たちの多くは生存のために、差しだされるものには何でも飛びつくのです。

私は日本で不利益を被っている滞日フィリピン移民女性のための支援情報センターであるKAFINのプログラム・コーディネーターとして働いていますが、売春や強制労働へと引き込まれている女性たちがたくさんいます。その多くはエンターテイナーとしての仕事を約束されていたのですが、結局クラブのホステスとして「触りほうだい」の仕事をせねばならないのです。合法的に日本に入国した人が、若い女性を売春窟や手取り早く花嫁を見つけない日本人客へ売り飛ばす悪名高いヤクザのような犯罪組織の作る蜘蛛の巣に捕まったり、またメイル・オーダー花嫁として犠牲になっています。実際、彼女たちの多くが、脱出の難しい状況にいます。

ですが私をさらに悩ませているのは、他でもなくフィリピン政府が滞日フィリピン女性のトラフィッキングの事実を激しく否認している事です。現在のやり方にはトラフィッキングを他の問題と切り離し、女性を自暴自棄に大金を稼いだがつて、自ら望んで犠牲者になった者と扱う傾向があります。

フィリピンその他のアジアの貧しい国から来る女性のトラフィッキングとなると、日本はアジアでナンバーワンの国です。公式な政府の記録はその真実を隠しがちですが、何千人もの若いフィリピン女性が毎年犠牲になっています。日本のエンターテインメント産業はアジア地域で群を抜いて最大規模ですから、驚くにはあたらないでしょう。日本は貧しい国の女性を日本人男性の性的対象物としかみなしていません。毎年約6万人のフィリピン女性がエンターテイナーとして日本に入国します。彼女たちはエンターテイナーとして入国するために莫大なお金を払いますが、合法就労が認められるのは6ヶ月だけです。彼女たちと日本人及びフィリピン人プロモーター、そしてもちろんクラブ所有者たちとの搾取的関係のため、これらのエンターテイナーの多くは自分が来日のために支払ったお金を取り戻すことさえできません。その結果、多くの女性が罠にはまって、自分の意志に反した事をするよう強制されています。逃走を選び、不法就労者になる危険を冒す人も居ます。そして、もう一つの虐待と搾取のサイクルがそこで始まるのです。

トラフィッキング被害女性の受入国としての日本は、これを抑止するために何もしてきませんでした。日本はアジア、ラテンアメリカ、中東の貧しい国々から多くの女性移民を受け入れ、巨大なエンターテインメント産業の需要を満たしてきました。が、問題が事の始まりから明白だったにもかかわらず、日本は人身売買を阻止するいかなる法も制定してきませんでした。今、日本は米国が日本をアジア

アの人身売買大国だと名指した結果、国際社会から孤立する瀬戸際に立たされています。そのために小泉政権は突如としてその場しのぎの取り組みを開始し、自己のイメージを浄化することで問題を回避しようとしています。日本政府はエンターテイナー志願者に厳しい条件を課すなど警察による取り締まりを強化しており、加害者を追跡するのではなく被害者を処罰しています。これと別に日本は未登録移民を犯罪者として取り締まってきました。

自ら望んで犠牲者になる者がいなければ人身売買も起こらない、と言う人がいます。私はその人々は間違っていると申し上げます。誰も売春や強制労働へと引き込まれることを望みません。むしろ、送出国・受入国双方の社会に女性が容易にトラフィッキングの標的になるような条件があるのです。フィリピンのような貧しい国々の女性は、そもそもの始まりから犠牲者です。ここにいる全員と同様、彼女たちの多くは生存のためには心身の危険をも冒すでしょう。彼女たちは地球の反対側で進行中の戦争が非常に危険をもたらしているにもかかわらず、熱烈にイラクで働きたがる何千人ものフィリピン人契約労働者たちと同じです。それは人が生存のために採る自然な法則です。

では、どうやって私たちは問題を解決することができるのでしょうか？フィリピン人女性たちを犠牲者にする者を押しとどめる救済策は何でしょうか？

政府のイニシアティブは人身売買と闘うために絶対に必要なものですが、フィリピンの場合に証明されているように、幾ら法律だけをつみあげても問題の解決にはなりません。アロヨ政権は問題を取りあげると称し、国際社会を喜ばせるために2003年に人身売買禁止法を通過させました。が、その法の文言はトラフィッカーの活動を減速させませんでした。問題を根絶するどころか逆にそれは、トラフィッカーに、フィリピン女性を犠牲にする新しく、より創造的な方法を用いるように情報を提供する結果となりました。だから驚くに値しないことですが、「アーティスト認可証明書」（日本で将来エンターテイナーになる全員が持たねばならない）のような所謂安全証明があつてさえ、政府の管理はトラフィッキング関係組織の高度な手口に対応できていないことが証明されたわけです。その法律には犯人追跡の手段が欠けています。悲しいことに、フィリピン政府の怠惰によって処罰され恥をかかされているのは犠牲者であることがしばしばです。

名古屋の若いフィリピン女性のトラフィッキング犠牲者のケースがフィリピンの彼女の家族から大阪のフィリピン領事館に知らされた時、領事館は不利益を受けたフィリピン人を援助する愛知県 NGO にその情報を伝えることしかできませんでした。そしてその NGO から犠牲者をフィリピンに送還するために援助を提供してほしいと問われた領事館は「考えてみましょう・・・」と気取った言葉を述べただけでした。国民の利益に奉仕すると主張する政府がこれでは悲劇的でないのでしょうか？このような単純なケースにさえ政府機関が十分に対応できないのに、政府が人身売買と闘うことを期待することができるのでしょうか？

だから女性のトラフィッキングとの闘いは、政府同様、人民組織と NGO が取り組むべき課題なのです。送出国と受入国の政府から明確な支援がない中で、人民組織と支援 NGO が重要な役割を果たします。必要な際の被害者支援は被害者の苦しみの軽減のため絶対に必要なことです。しかしより大きな課題は女性への虐待と搾取を永遠化している社会の構造的変革を実行することにあります。

女性はすでに社会における自らの価値を証明してきました。女性は自分自身の未来を切り開くために長い道を歩んできました。私たちは女性を抑圧する全ての社会的悪の完全根絶まで闘いをやめるべきではありません。女性による、女性及び社会で同様に虐待され搾取されている他の人々のための集団的で心を寄せ合った努力を通してのみ意味ある真の変革が実現できます。

ありがとうございました。

【日本語訳 藤目ゆき】